



冒頭、挨拶される小島局長

4月20日九州森林管理局では、「コロナ時代に対応した国有林野の管理経営」と題し、令和3年度の重点取組事項について記者発表を行いました。

記者発表では、冒頭、小島孝文局長より「公益重視の森林経営、林業の成長産業化、国民の森林としての活用、3本柱の基本方針の下、地方創生などの課題に対して、国民の期待に応えられるよう取り組んでいきたい」との挨拶が

質疑応答では、令和2年7月豪雨の被災地の復旧状況、次世代造林プロジェクトの成果のとりまとめ、シカ捕獲の取組状況、国有林材の供給調整等について質問があり、局長及び担当部長より回答し、取組に対する理解を深めて頂きました。

なお、九州森林管理局の令

育成。



説明中の一重企画調整課長

あり、その後、一重喬一郎企画調整課長から具体的な取組内容を説明しました。

和3年度重点取組事項は次の7項目です。

①木材の安定供給と担い手の育成

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う木材需要の大幅な減少時等には、地域の需給動向を踏まえ、国有林材の供給調整を実施。

・森林の多面的機能の持続的発揮に向けて、計画的な森林整備を推進し、森林整備を通じて生産した木材については、国産材の需要拡大や加工流通の合理化に取り組み製材工場等に安定的に供給。

・森林整備と木材の安定供給を進めるため、生産性向上の取組等により、意欲と能力のある林業経営者等の担い手を育成。

②確実な再造林の実施に向けた低コスト造林技術の確立

・各地で伐採面積が増加する中、確実な再造林に向け、国有林のスケールメリットを活かして先駆的手法を積極的に実証・導入し、低コスト造林技術を確認するとともに、これら技術の民有林への普及に取り組み。

・特に、成長が早い苗木(特定母樹)の中苗を導入することなどにより、シカ柵設置と下刈を不要とする施策を指

③深刻化するシカ被害への対応

・シカの生息数増加や生息域の拡大による森林被害は深刻であり、林業経営の面だけで

コロナ時代に対応した国有林野の管理経営 令和3年度重点取組事項

なく、森林の公益的機能の発揮にも影響。

・森林被害が甚大な地域を中心に、関係機関と連携しつつ、委託等による効率的なシカ捕獲や地元市町村・猟友会等とのシカ被害対策協定に基づく取組等を推進。

④ 森林経営管理制度を踏まえた 民有林行政の支援

・平成31年4月から民有林において森林経営管理制度が導入され、同年9月には森林環境譲与税の譲与が開始。

・森林経営管理制度が円滑に機能するよう、森林総合監理士等による市町村の森林・林業行政等に対する技術的な支援を推進。

⑤ 優れた自然環境の保全と森林 景観を活かした観光資源の創出

・特に優れた自然環境を有する国有林を保護林に設定し、森林生態系の保全、希少な野生生物の保護を図ることとし、モニタリング調査等を通じた順応的管理を実施。このうち重点的にシカ被害対策をする

保護林を17箇所選定し、順次シカ柵等を設置。

・優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森に設定し、保健休養の場として提供。このうち、特に景観等の優れた箇所については、「日本美しの森 お薦め国有林」として重点的な環境整備等を実施。

⑥ 地域の安全・安心 確保に向けた取組

・近年多発している地震・集中豪雨等による山地災害の復旧・復興に向け、全力で取り組んでいるところ。併せて、荒廃山地の整備や保安林の水士保全機能の強化等により、地域の安全・安心を確保するための事前防災・減災対策を推進。

・平成29年7月九州北部豪雨による被害が大きかった福岡県朝倉地区において引き続き民有林直轄治山事業を実施。令和2年7月豪雨により山地災害が集中した熊本県芦北町など1市2町の民有林において、県からの要請を踏まえ国が直轄代行で復旧工事を実施。

⑦ ICT等の積極的な活用

・現在、森林・林業・木材産業の分野においても、ICT（情報通信技術）等の活用に向けた技術開発が進められているところ。

・林業の特性を踏まえた新技術の活用による「林業イノベーション」に向けて、シカ捕獲へのICTの活用や、森林調査や災害復旧業務等へのドローン等の活用など、各事業にICT等を積極的に活用。



参加頂いた記者の方々

※令和3年度重点取組事項は、九州森林管理局RFPのキーワード「九州森林管理局の重点取組事項」からご覧になります。

(担当II企画調整課)

令和2年度治山・林道コンクールの表彰者決定

九州森林管理局長表彰の授与
農林水産大臣賞及び林野庁長官賞の伝達表彰

令和2年度治山・林道工事コンクールの表彰式を令和3年4月13日、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、局大会議室において開催しました。

当局から林野庁へ推薦した3社の工事が、農林水産大臣賞（治山工事1社）、林野庁長官賞（治山工事1社・林道工事1社）を受賞されたことから伝達表彰を行い、当該工事の現場代理人等並びに監督職

このコンクールは令和元年度に施工した工事で、事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づき取り組みテーマ（コスト削減・技術提案・環境配慮・施工管理）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判断された、治山工事部門5社、林道工事部門3社に対して九州森林管理局長表彰を行いました。

また、九州森林管理局局長表彰に併せて



表彰された皆さんと局の関係者

員に対し、九州森林管理局局長表彰を行いました。

小島孝文九州森林管理局局長から「表彰された皆様方には、心よりお慶び申し上げますと

もに、長年培ってこられた施工技術により、優れた工事を施工されたことに敬意を表す。近年、毎年のように台風や大雨等による山地災害が頻発する中、国民の生命・財産を守り、安全・安心を提供する治山事業と、森林の適正な管理や森林資源の循環利用を支えるインフラ整備としての林道の意義は、益々大きなものになっていると考える。当局としても、今後とも、国民の期待や要請に適切に応えていくため、効果的な治山・林道工事の実施に努めて参りますので、皆様におかれましても、なお一層技術力の向上に努められ、より良い工事の施工に御尽力を頂きますよう、心からお願ひ申し上げます」と挨拶を述べ、表彰式を終りました。

受賞者は次のとおりです。

◆農林水産大臣賞

○朝倉地区治山工事（関連災（赤谷川6・7））

《九州森林管理局発注》

林建設株式会社

代表取締役 林 隆秀

◆林野庁長官賞

○桜島地区治山工事（西道川第2支流）

《鹿児島森林管理署発注》

坂本建設株式会社

代表取締役 諏訪園 匠

○鬼ヶ城林道災害復旧工事及び改良工事

《九州森林管理局発注》

小倉建設株式会社

代表取締役 永吉 陽一

◆九州森林管理局長賞

【工事の部】

○奈良ヶ谷治山工事（関連災）

《福岡森林管理署発注》

株式会社へいせい

代表取締役 西原 幸作

○納屋ヶ平治山工事

《宮崎森林管理署発注》

株式会社長友組

代表取締役 長友 正憲

○崎野瀉治山工事（3, 4工区）

《鹿児島森林管理署発注》

株式会社大坪建設

代表取締役 石原 堅

○朝倉地区治山工事（関連災（妙見川2））

《九州森林管理局発注》

株式会社梶原組

代表取締役 梶原 昭人

○朝倉地区治山工事（関連災（乙石川））

《九州森林管理局発注》

株式会社山崎産業

代表取締役社長 山崎 貞彦

《九州森林管理局発注》

那須建設株式会社

代表取締役社長 那須 正

○ネゴロ1033林道新設工事及びネゴロ林道改良工事

《佐賀森林管理署》

山口建設株式会社

代表取締役 山口 貞彦

○鳴水谷林道新設工事

《大分森林管理署発注》

株式会社山崎産業

代表取締役社長 山崎 司

○小布瀬林道新設工事及び改良工事

《宮崎南部森林管理署発注》

永野建設株式会社

代表取締役 永野 真哉

【技術者の部】

○朝倉地区治山工事（関連災（赤谷川6・7））

現場代理人 犬童 健二

監督職員 加来 尚貴

（治山課・現長崎署）

○桜島地区治山工事（西道川第2支流）

現場代理人・監理技術者 岩下 智洋

監督職員 日隈 俊幸

（坂本建設株式会社）

○鬼ヶ城林道災害復旧工事及び改良工事

現場代理人 若杉 康宏

主任技術者 友松 信夫

（小倉建設株式会社）

監督職員 柿本 一宏

（森林整備課・現屋久島署）

（担当）治山課

現場代理人 若杉 康宏

主任技術者 友松 信夫

（小倉建設株式会社）

監督職員 柿本 一宏

（森林整備課・現屋久島署）

（担当）治山課

新規採用研修及び基礎全般研修の前期日程を終える

4月19日から20日の2日間

において、令和3年度一般職員採用者18名を対象に新規採用研修を実施しました。

小島孝文局長訓示をはじめとし、

川戸英騎業務管理官、岩井広樹総務企画部長からの講話、一重喬一郎企画調整課長からは、「九州局の取り組み事項」について分かりやすい講義をしていただいた後、岩下隆徳総務課長他業務担当者から「職員の健康安全」「公務員倫理」「人事評価・ハラスメント防止」

「各課の概要」等についての講義を受けました。

引き続き4月21日から23日の3日間において、基礎全般研修（前期）を実施し、総務課各係の業務・経理課各係の業務・企画調整課から「情報セキュリティ」「各システムの基本操作等」・計画課から「森林調査簿等の見方」の講義を受けました。

5日間の短い研修でしたが、



新規採用者の皆さんと局幹部



九州国有林採石協会会長より贈呈

緑の募金贈呈式

今年も緑の募金贈呈式が行われました。4月13日に熊本市中心区のKKRホテル熊本

各講義等に対して研修生全員が真剣に取り組み、質問も積極的に行うなど活気のある研修となり、受講している研修生の姿を見てみると、今後の国有林野事業の明るい未来が見えたように感じたところでした。

最後に局長はじめ、幹部の皆様、今回の研修にご協力いただきましたました講師の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

(担当) 研修主任官

「虹の松原」の保全にむけて

【佐賀森林管理署】4月20日、唐津市に所在するの「虹の松原」を保全するための薬剤散布実施前に、佐賀県、唐津市、虹の松原保護協議会、佐賀玄海漁業協同組合など行政機関団体、18者に対して、令和3年度の松くい虫防除事業に係る薬剤散布計画の事前地元説明会を開催し、白石健二佐賀森林管理署長ほか6名が出席しました。

(担当) 技術普及課

で一般社団法人九州林業土木協会山本求道会長から、4月23日には九州森林管理局局長室で九州国有林採石協会中田博基会長から、それぞれ緑の募金が手渡されました。

九州森林管理局では、今年も緑の募金全国一斉強調月間である「みどりの月間」(4月15日～5月14日)に募金活動を展開しています。

集まりました募金は、国土緑化推進機構と熊本市地域みどり推進協議会を通じて、日本全国の森林整備や緑化推進事業に活用されます。

なお、「みどりの月間」中は、監物台樹木園にも募金箱を設置しています。



挨拶される白石署長

はじめに、白石健二佐賀森林管理署長から、「虹の松原は、唐津湾から吹く海風による飛砂、潮害などから住宅や田畑を保全する海岸防災林としての役割を有し、また文化財、観光資源としても貴重な財産です。この松原を将来にわたって引き継いでいくため、松くい虫防除事業は不可欠であります。本日は、事業実施前に関係機関・団体の皆さんに説明を行うこととしご理解ご協力をお願いしたい。」と述べました。

つづいて、山部清人森林整備官から、本年度の松くい虫防除事業について、散布の目的、日程、対象面積、連絡体制などを説明しました。

その後、出席者から雨天時の散布対応、交通の規制・解

菊池溪谷山開きが開催

除について質問があり、当署の回答として、天候により適切に判断し、散布の進捗によって交通規制を順次解除していくと回答しました。

おわりに、虹の松原はこれまで多くの方々のかわりの中で維持されてきました。引き続き、松原保全のため取り組んでいくこととしました。

【熊本森林管理署】4月15日、令和3年度の菊池溪谷の山開きが、菊池溪谷を美しくする保護管理協議会の主催により、当局の有菌敏行保全課長や当署の川畑充郎署長など関係機関から約40名が参加して盛大に開催されました。

まず、神職による神事及び関係機関による玉串奉奠が行われ、今シーズンの菊池溪谷内の安全が祈願された後、主催者を代表し協議会会長の江頭実菊池市長が「新型コロナウイルスは本日の幸せは何かを見直す機会となったが、今こそ菊池溪谷の価値や魅力に気づいてもらえるはずだ」と挨拶、来賓と



代表者によるテープカットの様子

して当署の川畑充郎署長が「林野庁においては森林サービズ産業の創出と推進に取り組んでいるところであり、当署としても菊池溪谷が更に発展するように全面的にバックアップして参りたい」と挨拶しました。

最後に新緑の合間から陽光が差す中、関係機関の代表者がテープカットを行い山開きは終了しました。当署としては、こういう時にこそ多くの国民の皆様が菊池溪谷のような大自然の中でおいしい空気を吸って、素晴らしい景観に触れながら心も体もリフレッシュして頂きたいと考えています。

新任挨拶 どうぞよろしく

令和3年4月1日付の異動により、新しいポストに就かれた、業務管理官・3名の部長・5名の課長・6名の森林管理署長・都城支署長をご紹介します。

業務管理官



川戸 英騎
かわと ひでき

年齢 55歳
出身地 三重県
前職 中部森林管理局
森林整備部長
抱負 初めての九州勤務となります。

これまで皆様が守り育ててきた九州の国有林の機能を最大限に発揮しながら、より素晴らしい森林を次世代へ継承していくために、皆様方と力を合わせて取り組んで参ります。
どうぞよろしくお願いたします。

総務企画部長



岩井 広樹
いわい ひろき

年齢 56歳
出身地 北海道
前職 林野庁林政課管理官
抱負 九州での勤務は初めてです。

九州森林管理局で勤務できることは、有名な林業地が発展してきた地域の中で、更に全国に先駆けた取組を進めている局でもあることから、非常に名譽あることと思っております。
新型コロナウイルスによる影響で大変な時期ではありますが、地域から信頼される国有林となるうえで期待される

計画保全部長



山根 則彦
やまね のりひこ

年齢 53歳
出身地 栃木県
前職 林野庁森林整備部研究指導課森林保護対策室長
抱負 はじめての九州局勤務です。

このため、管内各地に足を運ぶことや職員のみなさんとの会話などを通じて早期に管内の状況把握に努めます。
また、仕事を進めるに当たっては、報告・連絡・相談などの基本を押さえつつ、関係機関とのさらなる連携も模索するなどして、より効果的・効率的な取り組みとなるよう努

九州森林管理局の各事業が円滑に推進するよう、心身ともに健康で災害のない明るい職場づくりに全力で取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

森林整備部長



大道 一浩
おおみち かずひろ

年齢 53歳
出身地 兵庫県
前職 林野庁林政部林政課広報官
抱負 初めての九州局勤務になります。

現在コロナという我々が過去に経験したことのない環境下で全国の木材の需給動向は大きく変化しており、九州においてもそれは変わらず、赴任後、戸惑いつつも今後しっかりと注視していきたいところの1ヶ月弱の間、強く感じているところです。
国有林の役割は管理経営を通じた着実な事業実施により地域の活性化に寄与することです。九州の森林・林業・木

力し、みなさんとやりがいのある楽しい職場づくりを目指したいと思っていますのでご協力をお願いします。

総務課長



岩下 隆徳
いわした たかのり

年齢 57歳
出身地 熊本県
前職 経理課長
抱負 総務課の業務は研修や共済、給与・服務など、全ての職員が関わる業務を多岐にわたって担っており、欠くことのできない重要な役割を担っています。

新たな役職で身の引き締まる思いですが、良き課内のスタッフと一丸となって職員の皆様が行う各種業務をしっかりサポートして参ります。
新年度を迎えて、職員の方々と共に不祥事の撲滅と職

材産業のさらなる活性化に向けて、風通しのいい職場環境のもと、皆さんと共に健康、安全に留意しつつ明るく元気に汗をかきたいと思っております。
よろしくお願いたします。

員災害の削減を達成したいと
考えておりますので、職員の
皆さまのご協力をお願いいた
します。

企画調整課長



一重 喬一郎

ひとえ きょういちろう

年齢 36歳
出身地 東京都
前職 国土交通省住宅局住
宅生産課木造住宅振
興室課長補佐

抱負 これまでは、林野庁
木材産業課や国土交通省木造
住宅振興室において、木造建
築の普及による木材需要の拡
大に向けた仕事に主に取り組
んできました。日本では戸建
住宅の9割は木造で建てられ
それ以外の大きな建築物も木
造で建てるのが可能です。
しかし、それには、再造林が
すべき林地に確実に再造林が
なされ、今後も森林資源を持
続的に利用できることが必要
です。

主伐・再造林の先頭を走っ
ている九州において、持続的
な林業の確立をはじめ様々な
課題に取り組み、森林・林業
国有林の発展に貢献したいと
考えております。
初めての九州勤務ですので、
よろしくご指導のほどお願い
致します。

経理課長



高村 俊郎

たかむら としろう

年齢 58歳
出身地 熊本県
前職 総務企画部専門官
(債権管理担当)

抱負 前職で3年間経理課
内に勤務し契約・債権等を担
当しながら経理業務にも少々
携わっていましたが、今回の
異動で経理業務全般に携わる
ことになり身の引き締まる思
いです。経理業務の経験はほ
んどありませんが、厳格で
正確さを求められる経理業務
を課職員の力を得て進めるこ

とにより、各種業務の円滑な
実施の下支えとなるよう取り
組んで参りますので、どうぞ
よろしくお願ひします。

保全課長



有蘭 敏行

ありその としゆき

年齢 58歳
出身地 鹿児島県
前職 都城支署長

抱負 国民の財産である九
州の国有林を適切に保全管理
し、地域の振興や地域住民の
向上に寄与するための各種要
請に適時適切に対応しつつ、
深刻化するシカ被害対策につ
いては、地域や関係機関と連
携して取り組むとともに、職
員の健康・安全を第一に考え
災害のない明るい職場つくり
に努めてまいりますので、ど
うぞよろしくお願ひします。

森林整備課長



峰内 浩昭

みねうち ひろあき

年齢 58歳
出身地 熊本県
前職 保全課長

抱負 林野行政は、時代の
流れとともに変化し多種多様
に求められてきており、特に、
林業の成長産業化に向けた当
課事業は、持続可能な森林経
営のための低コスト造林技術
の具現化や、より災害に強く
利用(運搬)しやすい路網整備
への取り組みです。
はじめての当課勤務ですが、
各署等職員の皆さんとともに、
各研究機関や民有林行政等、
地域の皆さんとよく連携し、
情報共有を深め進めたいと考
えておりますので、どうぞよ
ろしくお願ひします。

佐賀森林管理署長

年齢 56歳
出身地 熊本県
前職 林野庁国有林野部管
理課課長補佐(安全)



白石 健二

しらいし けんじ

衛生班担当)

抱負 25年ぶりの九州局勤
務で、佐賀森林管理署勤務は
初めてとなります。職員の皆
様とともに、健康と安全を第
一に、明るく風通しの良い職
場づくりに取り組んで参りま
す。

また、管内には、国指定の
特別名勝の「虹の松原」を有
しており、地域の関心も高い
ことから、松原の保全等の関
係者との連携を図りながら対
応していきたいと考えていま
す。
さらに、民有林との連携を
深めつつ、国有林が地域に貢
献できるよう、職員の皆さん
と一緒に頑張って取り組んで参
りますのでよろしくお願ひし
ます。

長崎森林管理署長

年齢 56歳
出身地 熊本県

前職 関東森林管理局
天竜森林管理署長



高木 敏
たかき さとし

抱負 新採以来の九州局勤務です。

健康、安全に留意し、長崎署の職員の皆様とともに、風通しのよい明るく元気な職場づくりを目指して参ります。
併せて管内には五島列島・対馬などの離島や国立公園・国定公園等に指定された豊かな自然が多く残り、動植物の生息生育環境を提供しています。その一方で、雲仙普賢岳・眉山のように住民の安全安心に直結している地域もあることから、事業の実施に当たっては、地域の関係者や各機関と連携しながら、長崎森林管理署があつてよかったと思われるよう、着実な事業実行に努めて参ります。

大分西部森林管理署長

前職 東北森林管理局
仙台森林管理署長



津脇 晋嗣
つわき しんじ

抱負 これまで治山に関する業務が長く、生産、森林整備、森林活用等に関する業務は久しぶりとなります。一から勉強するつもりで励みたいと思ひます。

また、九州での生活は初めてとなりますので、あちらこちらに行ってみたいと思ひます。

宮崎森林管理署長



米田 雅人
よねだ まさと

年齢 58歳
出身地 鳥取県

前職 企画調整課監査官



塚本 徹
つかもと おさむ

抱負 宮崎県での勤務は28年振り旧小森署以来となります。職員の皆様とともに、安全と健康を第一に明るく、風通しの良い安全・安心に働ける職場づくりに取り組んで参ります。

また、管内は、古くから林業・木材産業が盛んな地域であり、これまで築かれてきた森林資源を有効に活用し、木材の安定供給を行えるよう取り組みことは勿論のこと、霧島連山の新燃岳・硫黄山の火山対策や観光資源の活用など地域からの様々な要望やご意見も伺いながら、地域に根ざした取組を展開するため民有林との連携を深めつつ、国有林が地域に貢献できるように、職員の皆様と一体となって取り組んで参りますので、よろしくお願ひいたします。

宮崎南部森林管理署長

年齢 57歳
出身地 熊本県



福嶋 貢史
ふくしま こうじ

前職 北海道森林管理局
宗谷森林管理署長

抱負 30年ぶりの九州局での勤務となりますが、歴史ある肥沃林業の地において、地域に貢献し、信頼される国有林となるよう取り組んでまいります。

そのためには、職員の皆さんがやりがいを持って業務に取り組めるよう、「コミュニケーション」をとりながら明るく働きやすい職場づくりに努めていきたいと思ひます。
また、当署は分収造林が多く伐期を迎えており、更新・保育面積が増加する中、いかに造林の低コスト化を図るかが重要な課題となっています。地域の自治体や林業事業者等関係者の方々とともに、民有林一体となって地域の課題解決に向け取り組んでまいりますので、よろしくお願ひいたします。

宮崎森林管理署 都城支署長

年齢 55歳
出身地 熊本県

主伐・再造林、間伐など森林整備を通じた森林の多面的な機能発揮、民・国有林が連携した林業・木材産業の推進、地域や関係機関と連携した森林づくりなど、しっかりと取り組んで参ります。
どうぞよろしくお願ひいたします。

抱負 前任地の東北森林管理局仙台森林管理署から参りました。
平成23年8月から平成26年3月までの屋久島森林管理署勤務に続き、九州森林管理局での勤務は2回目となります。
宮崎森林管理署管内の国有林はスギなど豊かな森林資源に恵まれ、森林整備や木材供給をはじめ、綾の照葉樹林プロジェクト、一ツ葉海岸林の整備等の地元自治体や地域の皆様などと連携・協力した取組、自然休養林における森林とのふれあいなど、国有林に多くの役割・活動が期待されています。

沖縄森林管理署長



伊藤 香里

いとう かおり

年齢 54歳
出身地 千葉県
前職 農林振興局農村政策
部地域振興課課長補
佐(調査調整班担当)

抱負 九州局には平成3年に熊本営林署の森林官として勤務させていただいて以来、30年ぶりになります。国有林の仕事のイロハから地域との付き合い方等々を教えてください。いただいた九州局で再び勤務することができ、感謝とともに身の引き締まる思いです。

沖縄の国有林は世界自然遺産の推薦地域であるやんばる地域、西表島などは生物多様性や固有種の宝庫であり、内外の注目もあるなかで、地域や関係機関との連携・協力を持ちながら管理経営を行っていくこととなります。多様な意見をよく聞き、職員の皆様

様とともによりよい施策の実施に取り組みたいと思います。本土とは気候も植生も異なり、また、国有林の役割も異なりますが、健康で明るく風通しのよい職場作りはもとより、誇りを持って仕事に取り組める職場となるように取り組んで参ります。

国民参加の森林づくり (多様な活動の森) 協定締結

【大分森林管理署】令和3年4月1日、NPO法人おおい環境保全フォーラム(理事長・内田桂)と猪島明久大分森林管理署長による国民参加の森林づくり(多様な活動の



協定締結の様子

森)協定を締結しました。

国有林のフィールドを活用した、様々な活動や市民や子供たちに森林体験、自然観察などの自然とのふれあいを通じて、自然の仕組みや森林の役割などを学べる自然学校を創出することを目指しています。(名称としては、とどろの里自然学校・遊学の森と設定されています。)

現地は、佐伯市宇目町に所在する茅野国有林1030ほ(林班外(6.87ha)で林齢52年生を中心とする広葉樹林分であり、今後は佐伯市米水津において先行して進めている里海体験施設と連携しながら、森から海へと続く生態系、生物多様性保全について学べる場を提供していく予定です。

「海岸林ボランティア植樹」

【宮崎北部森林管理署】去る4月15日、日向市伊勢道国有林において、九州林業土木協会宮崎支部主催によるボランティア(植樹)が開催され、

当署からも小原豊治次長をはじめ署内職員14名が参加しました。当該箇所は、マツクイ



ボランティアの皆さん

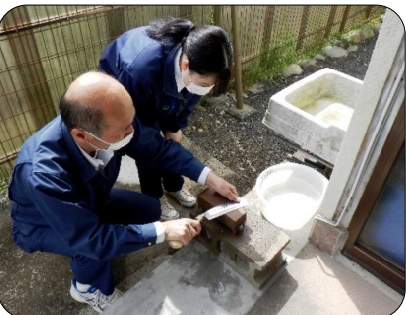
ムシ被害箇所の特別伐倒駆除跡地で、空間が広がり、また、伊勢ヶ浜海水浴場に隣接し、入込者が多いこともあり植樹箇所として選定されました。

植樹では、抵抗性クロマツ千本が用意され、陽が高くなるにつれ参加者全員が汗をかきながら普段慣れない作業ではありましたが、午前中で終了することができました。

今後は、マツの全ての活着を願い、周囲の植生状況を見ながら、引き続きボランティアによる下刈を検討していくとのことでした。

OJT「安全な作業は 道具の手入れから」

【大分西部森林管理署】令和



刃物の研ぎ方の実技の様子

3年4月12日、当署山国森林事務所において、今年度4月に当署に配属された新規採用職員に対し安全面に係るOJTを実施しました。

当日は、森林官等と共に安全意識の向上に向けた安全懇談会に参加することから始まりました。

まず、森本明次長から前年の職員災害発生状況等の説明があり、特に近年の職員災害の傾向として、全国的に刃物による災害や転倒・滑落による災害が非常に多い実態を踏まえ、様々な事例をもとに原因分析を行い、各人からの意見を見聞きする中で基本動作、危険予知等の安全確保の重要性を認識して頂きました。

その後、ベテラン職員から山仕事の大事な道具である腰鉈の刃の研ぎ方を実技方式で

行い、研ぐ際の注意点や刃こぼれ等の知識を学習するとともに、安全な作業は道具の手入れから始まっていることも理解して頂きました。

それから、森林事務所から現場へ場所を移し、林道沿いに仕掛けられている手作りの蜂誘引補殺器の設置状況を見ながら、蜂・ダニ刺され予防対策等の説明を受けた後、岩場付きの現地にて、腰鉋・鋸の手工具を使用して状況に合った灌木の伐倒や枝払いを実践し、作業前・作業時・作業後の注意点を見聞きし当日の安全面に係るOJTを終了しました。

今回の刃物の研ぎ方や手工具による伐倒作業等は、初めての経験ということでしたが、上方や周囲、伐倒方向の確認等の安全意識を高め、これから現場経験していく中で少しずつその内容を理解し、基本動作の徹底、手元・足元の確認、保護具の完全着用に心がけつつ安全作業に取り組み、将来的に後輩等とその技術等を継承して頂くことに多いに期待するところです。

当署は、OJTとして他業務の分野も含め、これから継続的に教育プログラムを実施しスキルアップして頂き、職員の人材育成に努めていくこと

とじています。

宮崎県内森林管理署等民国連携推進担当者会議を開催

【宮崎森林管理署】宮崎県内各(支)署等における民国連携業務に携わる森林技術指導官等の担当者が一堂に会する

「宮崎県内森林管理署等民国連携推進担当者会議」の会合を3月15日、16日の2日間に渡って宮崎北部森林管理署で行いました。

初日は、同署会議室において、各(支)署等におけるケースタディ地区による市町村支援、森林共同施業団地、その他民国連携の取り組み等に

ついでの意見・情報交換と事務局から森林経営管理制度等の情報提供が行われました。各(支)署等から、新型コ罗纳禍の状況において、ケースタディ地区、森林整備協定

については特段の取り組みは行っていない、マンネリ化している、どう取り組んでいいのか迷っている等の類似の意

見が出されましたが、今後とも効果的かつ効率的な民国連携、市町村への支援のあり方や課題等についての情報共有を図ることが重要との意見で一致しました。

二日目は、JA日向のご協力により美郷町北郷地区で生産されている「日向備長炭」の視察を行いました。



志賀 和美さん

私の生まれ育った大分の竹田市は九州のほぼ中央、大分県の南西部に位置し、熊本県と宮崎県に接しています。

総面積は477km²、69%が森林で、うちスギなどの針葉樹は森林面積の43%をしめています。

私は素材生産業を営んでいます。父が先代の会長で皆伐がメインの素材生産をしていました。機械化が進み高性能林業機械を使い、県下トップクラスの機械保有と出荷量をあげてきました。そんな中、父が病気で亡くなり私たちが夫婦が会社の経営を急に引き継ぐこととなりました。今まで会社では経理しかしたことがなかつ

素材生産業からみた所有者の声 今後の展開

たのですが、父の死をきっかけに林業を学ぶことにしました。

弊社は民有林の買取の業者なので、森林所有者さんとお話しをすることが多く長期に渡る木材価格の低迷によって「私の代で終わりたい、土地ごと購入してほしい」と考える方も多くなってきました

域から植栽体験などの取り組みをして、山に入る機会を増やし興味をもってもらいたいです。

スギ、ヒノキだけではなく管理が難しい場所などに関しては広葉樹への転換を進めたりしています。木材がもっと一般的に生活の中で活用でき、それによって森への関心が高まり生活において山とともに生きる時代がくることを願っています。

(大分県竹田市在住)

育林の事業は取り組んでいませんでしたが、やはり伐採跡地が放棄されて竹藪だらけになっていくのを見てこのままじゃいけないと思い育林部門も立ち上げました。植栽や下刈の仕事はほぼ人力です。とても肉体的にもきつい仕事ですが、未来の為、志をもって行わないとかなかなかできる仕事ではありません。現代人は山に入る機会が少なくなってきたので、興味



モニターさん



会議の様子

アラカシを国有林にも植栽したり原木供給してもらいたい等の要望がありました。

各(支)署等では、様々な会議等において宮崎県、関係市町村等との独自の連携強化に努めています。本会議において情報共有等を図り、関係機関との垣根を低くして地域の森林・林業の課題解決のための取組を継続することが重要であることを確認して今



日向備長炭の視察の様子

回の会議を終了しました。

訂正して、お詫びいたします

広報九州(No1790)7ページの「人のうごき」の記事で、橋本晁寛さんの新本務官職名称を「宮崎署地域技術官」と掲載しましたが、正しくは「都城支署地域技術官」でしたので訂正して、お詫びいたします。



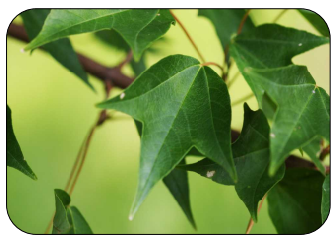
誰にでも心に残る言葉があるはずだ▼「あなたでこの仕事が終わるわけじゃない。たとえ後任が来なかったとしても今いる者は、後に続く者が一つでも築けるように、一つでも新たなことに取り組めるようにせなよ」この言葉は、私が若かりし頃に先日退職された方から言われた言葉だ。今もこの言葉が常に頭の中にある▼「あらゆることは備わっているものではなく、発揮されるものである」この言葉は、某漫画の一節にある最近私が一番好きな言葉だ▼4月の引越シーズンを終え、そろそろ新生活も落ち着いてくるころではないだろうか。自分が転動してもいろいろなことが結果として残る。後に続く者はその結果に対して、自身が今まで深めてきた知見、積んできた経験を“発揮”して取り組まなくてはならない▼知見を深め経験を積んで歳を重ねることに能動的にサクサク動ける職員になりたいと思う今日この頃。まずは現場を動きまわれるようになりたい万年タイエッター。一向に痩せる気配がない。サクサクとはうまくいかないものだ。【T】

都会の中の憩いの森
監物台樹木園の多様な植物

162
トウカエデ(カエデ科)

私の印象としては、古い学校(大学など)の校庭でよく見かけたことから、学校が作られた明治時代に渡来し、校庭や公園に植えるのに人気があった樹木だったんだろうなと思った。調べて見ると、1721年に中国から渡来したカエデで、八代將軍徳川吉宗が將軍家の植木職人・伊藤伊兵衛に、ミヤマカエデに接ぎ木したトウカエデを栽培・普及するよう命じています。この記事があり、想像と違って、江戸時代に日本に植えられていた。

トウカエデの特徴は、葉の上端が浅く3裂し、基部は鈍



見るだけでも判定できます。名前、唐カエデの意味で、唐は支那をさし、昔、唐から入ってきたことによります。森林インストラクター 安楽 行雄

「備長炭」と言えば、ウバメガシを原木とする和歌山県産の「紀州備長炭」が有名ですが、ウバメガシが自生していない当地区ではアラカシを使用し「日向備長炭」として出荷されており、J A日向を通して木炭問屋に卸され京都の高級料亭等で利用されています。しかし、資源減少による原木調達、高齡化に伴う生産者の減少により、その生産量は平成22年のピーク時から年々減少を続け、現在では約半分にまで落ち込み、持続的な原木確保とUIJターン等による担い手確保が喫緊の課題であるとのこと。また、持続的な原木確保に当たっては、町有林等に植栽されている